科目名	建築設計製図Ⅱ				
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅱ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中園　理恵子
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建設会社にて建築設計に従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	【鉄筋コンクリート・鉄骨造の製図】 配置図の描き方　平面図の描き方　断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方　1階床伏図・2階床伏図・1階小屋伏図の描き方 【住宅のフリープラン】 各自で条件にあったフリープランを作成する				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる
○					木造建築の一般図の種類と表現方法･内容が説明できる。
	○				製図の基本に則して木造建築物の配置図及び平面図を作図することができる。
	○				製図の基本に則して木造建築物の断面図及び立面図を作図することができる。
	○				製図の基本に則して木造建築物の矩計図を作図することができる。

テキスト・教材 参考図書

超入門建築製図 （市ヶ谷出版社）

授業計画

回数		授業項目・内容	授業外学修指示
1	2	課題説明・エスキース	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
3	4	エスキース	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
5	6	設計製図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
7	8	設計製図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
9	10	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
11	12	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
13	14	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
15	16	課題説明・エスキース	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
17	18	エスキース	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
19	20	設計製図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
21	22	設計製図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
23	24	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
25	26	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
27	28	設計製図・模型制作	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
29	30	設計製図・模型制作・プレゼンテーション	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。

評価方法

(1)課題の提出　(2)課題の発表　以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題	○	◎				50%
発表・作品		◎				50%

履修上の注意

出席回数が授業回数の2／3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない

科目名	建築計画Ⅱ				
科目名(英)	Architectural planning　and designⅡ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森行　美枝
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等を実施。				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				幼稚園(保育所)　関する　歴史　変遷について説明が出来る。
○	○				学校建築に関する　歴史　変遷について説明が出来る。
○	○				外部空間に関する　歴史　変遷について説明が出来る。

テキスト・教材 参考図書

初学者の建築講座　建築計画(改訂版)、カラー版図説　建築の歴史　西洋・日本・近代

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	3－1幼稚園(保育所)　幼稚園の変遷,幼稚園の計画1	
2	3－1幼稚園(保育所)　幼稚園の変遷,幼稚園の計画2　／西洋・日本建築史Ⅰ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	3－1幼稚園(保育所)　各室計画／西洋・日本建築史Ⅱ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	レポート課題①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	3－2小学校・中学校　小学校・中学校の変遷／西洋・日本建築史Ⅲ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	3－2小学校・中学校　学校の計画,校舎の計画／西洋・日本建築史Ⅳ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	3－2小学校・中学校　新しい教育形態への対応／西洋・日本建築史Ⅴ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	レポート課題②	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	7－1外部空間の把握　建築物と外部空間、外部空間の認識方法／西洋・日本建築史Ⅵ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	7－2外部空間の把握　外部空間のスケール／西洋・日本建築史Ⅶ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	レポート課題③	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	7－2外部空間の計画手法　都市の通過空間・都市の広場／西洋・日本建築史Ⅷ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	7－2外部空間の計画手法　住宅地の外部空間／西洋・日本建築史　総括	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	後期授業総括(1～13回)、レポート課題発表①②	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	レポート課題③発表	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと　期末試験に向けて復習をする

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること
(2)小テスト　(3)宿題・レポート提出　提出状況　など次の規準で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				80%
小テスト	○	◎				10%
宿題・レポート	○	◎				10%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	建築構造力学Ⅰ				
科目名(英)	Building Structural Mechanics				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀　俊光
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要である。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識が重要である。この授業では、構造力学の基本となる力の考え方を身につける。				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				力の合成と分解および合力を計算することができる。
○	○				モーメントを計算することができる。
○	○				力およびモーメントのつり合い式を立てることができる。
○	○				構造物の反力を計算することができる。
○	○				構造物の応力図を書くことができる。

テキスト・教材 参考図書

学芸出版社　図説　やさしい構造力学　出版年　2017年

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	基礎数学テスト	
2	力の合成	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	力の分解	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	力のモーメント	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	確認テスト(1)、荷重・力学モデル	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
6	力のつり合い	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	単純梁の反力計算(1)基本	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	単純梁の反力計算(2)応用	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	片持ち梁、張り出し梁の反力	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	単純ラーメンの反力	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	確認テスト(2)反力	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
12	単純梁の応力の基礎知識解説	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	単純梁の応力(1)基礎	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	単純梁の応力(2)応用	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	確認テスト(3)総合問題	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業の中で小テストを実施する。
(3)宿題を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				60%
小テスト	○	◎				20%
宿題	○	◎				20%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	建築一般構造Ⅱ				
科目名(英)	Introduction of Building Construction Ⅱ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀　俊光
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				RC構造の特徴について説明することが出来る。
○	○				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)について説明することが出来る。
	○				断面算定をすることが出来る。
○	○				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。
○	○				トラス構造について説明することが出来る。

テキスト・教材 参考図書

初学者の建築講座　建築構造　　市ヶ谷出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	鉄筋コンクリート構造(以下RC構造)とは	
2	RC構造の特徴	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	梁・柱部材	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	構造におけるひび割れ、スラブ・耐震壁	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	断面算定	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	その他のコンクリート系構造(壁式構造)(SRC構造)(プレストレストコンクリート構造)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	各部構造(陸屋根、床、階段、壁、天井、開口部)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	鉄骨構造の概要	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	鋼材の種類と性質	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
11	各部材の設計	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	接合(高力ボルト接合)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	接合(溶接接合)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	柱脚、トラス構造	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	構造Ⅱの総まとめ	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること　(2)授業の中で小テストを3回実施する。
(3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				40%
小テスト	◎	◎				40%
宿題・レポート	○	◎				20%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	建築施工Ⅰ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	集路　正巳
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築施工の位置づけと建築生産の基本理念を理解する。 建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を理解する。				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目　標
○	○				建築生産の基本概念を説明できる
○	○				建築生産の基本概念と設計から着工までの流れを説明できる
○	○				建築工事を構成する各工種の工程と留意事項を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)

テキスト・教材 参考図書

初学者の建築講座　建築施工(第三版)　市ヶ谷出版社

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	建築生産の基本概念と着工までのあらまし 建築生産(設計と施工)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
2	施工者を選定し、工事請負契約をむすぶ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	工事に着工する(着工)①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	工事に着工する(着工)②	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	仮設・準備工事①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	仮設・準備工事③	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	土工事・地業工事・基礎工事	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	確認テスト①　鉄筋コンクリート工事概説	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
9	鉄筋工事①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	鉄筋工事②	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	型枠工事	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	コンクリート工事①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	コンクリート工事②	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	コンクリート工事③	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	確認テスト②まとめ	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)授業の中で小テストを2回実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				80%
小テスト	○	○				20%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	建築法規　Ⅱ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳田　美穂子
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。
○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。
○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。
○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。

テキスト・教材 参考図書

・建築関係法令集　法令編

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	階段、廊下の幅	事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。
2	階段、廊下の幅②	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
3	確認申請などの手続き1	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
4	確認申請などの手続き2	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
5	構造と規模についての規定	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
6	用途地域1	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
7	用途地域2	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
8	道路概要	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
9	敷地と道路の関係	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
10	建ペイ率1	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
11	建ペイ率2	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
12	容積率1	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
13	容積率2（緩和）	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
14	容積率3（緩和）	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
15	確認問題　（筆記試験）	定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。

評価方法

（1）定期試験（筆記）を実施する
（2）授業の中で小テストを実施する
　成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				80%
小テスト	○	◎				20%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	検定対策ゼミＩＢ(選択)インテリアコーディネーター				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	赤星　亜美
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	オーダー家具制作会社でインテリアコーディネーターとして勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	インテリア産業協会主催インテリアコーディネーター検定対策の学習を通して、建築概要とインテリアコーディネーター知識のより専門的な知識の習得を図る				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				インテリアコーディネーター次試験合格レベルの知識を身につけることができる
	○				インテリアコーディネータ二次試験合格レベルの知識を身につけることができる

テキスト・教材 参考図書

テキスト:インテリアコーディネーター合格教本(上・下)　インテリアコーディネーター問題集(上・下)　その他

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	模擬試験	予習・復習することを心がける。
2	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
3	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
4	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
5	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
6	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
7	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
8	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
9	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
10	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
11	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
12	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
13	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
14	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。
15	模擬試験	前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。

評価方法

(1)小テストを各章が修了した次の授業で実施する。 (2)20回目から宿題あり。 (3)全国模試を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
全国模試		○				50%
小テスト		○				25%
宿題		○				25%

履修上の注意

予習復習(配布プリント)をしっかりすること。

科目名	CAD演習　ＩＢ				
科目名(英)	CAD exercise ＩＢ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	西尾　英士
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所で、インテリア設計・デザイン,CGパースに従事
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築CAD検定2級合格を目指す。試験は自らの持つ建築知識をもとに、CADシステムを使って建築図面を作成する実力を備えているかを問う内容。実技試験で、5時間内に平面図と立面図の2面を作成する。				
授業形式	講義:	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				検定の内容を理解して1/50の平面図の作成が出来る
○	○				検定の問題各図面を読み解き1/50の南立面図の作成が出来る
○	○				各図面より屋根形状を読み取ることが出来る
○	○	○			コマンドを駆使して正確かつ迅速な作図が出来る
				○	建築CAD検定2級に合格することが出来る

テキスト・教材 参考図書

建築CAD検定過去問題

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1,2	・建築CAD検定２級の試験概要の説明 ・第１課題　平面図作図	
3,4	. 第１課題　平面図作図	前回の復習をすること
5,6	・第１課題　平面図作図	前回の復習をすること
7,8	・第１課題　立面図作図	前回の復習をすること
9,10	・第１課題　立面図作図	前回の復習をすること
11,12	・第１課題　立面図作図　印刷して提出	前回の復習をすること
13,14	・第１課題　チェックバック　・第２課題平面図作図	前回の復習をすること
15,16	・第２課題平面図作図	前回の復習をすること
17,18	・第２課題立面図作図	前回の復習をすること
19,20	・第２課題立面図作図	前回の復習をすること
21,22	・第２課題立面図作図　印刷して提出	前回の復習をすること
23,24	・第２課題　チェックバック　・第３課題平面図作図	前回の復習をすること
25,26	・第３課題平面図作図	前回の復習をすること
27,28	・第３課題立面図作図	前回の復習をすること
29,30	・第３課題立面図作図	前回の復習をすること

評価方法

(1)3課題の提出を行う。(2)検定の合否(3)提出物のクオリティ
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題提出		○	○			30%
検定の合否		○	○		○	15%
課題のクオリティ	○	○	○			55%

履修上の注意

出席が2/3に満たない場合は、単位を認めない。

科目名	CG演習 Ⅰ				
科目名(英)	CG exercise Ⅰ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	西尾 英士
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所で、インテリア設計・デザイン,CGパース
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	コンピューターを使い2次元、3次元の専門ソフトを用いて画像を作成する技術を学ぶ。 課題を通して操作を学び、基本的な技術を身に着ける。				
授業形式	講義:	演習:　〇	実習:	実技:	※　主たる方法:〇　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	〇				Illustratorの基本機能を踏まえたレイアウト処理ができる
	〇				Photoshopによる写真と画像の補正とグラフィックの加工ができる
	〇				専用ソフトを使って3DCGが作成できる

テキスト・教材 参考図書

・『世界一わかりやすい Illustrator ＆ Photoshop 操作とデザインの教科書』ピクセルハウス(著)　技術評論社
・オリジナルテキスト

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1,2	IllustratorとPhotoshop の概要	Illustrator , Photoshop のインストール
3,4	Photoshop による　各種基本操作	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
5,6	Photoshopによる建築パース・写真の加工	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
7,8	Photoshopによる建築のパース（内観）作成	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
9,10	Illustrator　による　各種基本操作	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
11,12	Illustrator を用いたレイアウトの基本デザイン　練習①	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
13,14	Illustrator を用いたレイアウトの基本デザイン　練習②	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
15,16	有名建築をテーマとしたレイアウトボードのデザイン①	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
17,18	3DCGソフトの概要と初期設定	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
19,20	3DCGソフトの基本操作とモデリング	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
21,22	建物のモデリングと家具の配置①	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
23,24	建物のモデリングと家具の配置②	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
25,26	マテリアルの設定①	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
27,28	マテリアルの設定②	授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと
29,30	カメラの配置とレンダリング	

評価方法

各テーマ作成課題を評価対象成果物ととして評価：7種実施、その提出により評価

成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
各テーマ課題		◎				80%
宿題		〇				20%

履修上の注意

単位付与には、規定の授業回数の2／3以上の出席を必要条件とする。

科目名	住宅デザイン				
科目名(英)					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	赤星　亜美
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	課題制作を通して、インテリアスタイルまで考慮した住宅デザイン設計の知識と技術の習熟を図る				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○			平面計画と展開図を問題なく作成することができる
	○	○			デザインに統一感のあるインテリアスタイルを配置することができる
	○	○			平面図と展開図から1焦点パースによりパースを描くことができる
	○	○			平面図からアクソメ図を描くことができる
	○	○			期日までにプレゼンボードを作り上げることができる

テキスト・教材 参考図書

オリジナルプリント・【参考資料】前年度課題作品

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	概要説明　インテリアデザインの方向性を決める	
2・3	平面図と展開図で表現	授業内で終えられなかった作業は次回までに完了させておくこと
4・5	平面図と展開図作成　インテリアをレイアウト	
6・7	パースペン描き　立体的イメージをつくる	
8・9	パース着色作業	
10・11	パース着色完成　　パースの提出	
12・13	アクソメ図の作図　　平面図を使って	
14・15	アクソメ図のペン描き	
16・17	アクソメ図着色作業　　パース・アクソメ図の提出	
18~22	プレゼンボード作成　タイトル・コンセプト・素材集め	
23~27	プレゼンボード作成　レイアウト	
28~30	プレゼンテーション　講評	

評価方法

(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。 (3)期限内に提出すること。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題提出		○				30%
課題作品		○	○			60%
提出状況		○				10%

履修上の注意

出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。

科目名	ビジネスマナーⅡ				
科目名(英)	Business manner				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	津嘉山　佳子
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	専門学校にて、ビジネスマナー教員として勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客応対、電話応対、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○	サービス接遇検定3
○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。
	○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。
	○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する
			○		基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。

テキスト・教材 参考図書

・公益財団法人　全国経理教育協会　　社会人常識マナー検定テキスト　2・3級
・早稲田教育出版　　サービス接遇検定3級　実問題集第39回～43回

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	検定試験について　受験級の選択・検定結果について	
2	サービス接遇検定対策①　演習および解説　第39回	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
3	サービス接遇検定対策②　演習および解説　第40回	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
4	サービス接遇検定対策③　演習および解説　第41回	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
5	サービス接遇検定対策④　演習および解説　第42回	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
6	サービス接遇検定対策⑤　模擬試験	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
7	サービス接遇検定対策⑥　演習および解説　第43回	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
8	サービス接遇検定対策⑦　演習および解説	過去問題プリントを事前に解答しておくこと
9	来客応対1　接遇の意義と重要性を理解する　接遇の心構え	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	来客応対2　来客応対の流れ　来客応対の基本用語	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	来客応対3　名刺の受け方・渡し方・取扱い	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	来客応対4　ロールプレイング　テスト	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	電話応対1　電話の特性　電話話法のポイント	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	電話応対2　電話のかけ方・受け方　演習プリント	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	学習のまとめ　―　今期学んだことの復習、理解を深める	定期試験に備えて、復習をしておくこと

評価方法

(1)授業の中で小テストを2回実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	○				75%
ロールプレイングテスト	○	○				15%
態度・意欲				○	○	10%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	GCBⅡ				
科目名(英)	Global　Citizen　Basic　Ⅱ				
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	各クラス担任
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科　・　建築CAD科　・　インテリアデザイン科　・　建築学科(昼)　1年				
授業概要	GCBⅠで学んだ「感謝の気持ちと他社への思いやり」を踏まえ、GCBⅡではさらに「社会とのつながりの 中で自分自身の生きる姿勢＝志」について学ぶことを確認します。「志とは何か」を学ぶ第一歩として、「夢、ビジョン、志の違いについて」および「志を立てるために大切な4つのこと」を学びます。				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				考えることの大切さを知る
○	○				自分の言葉で伝える大切さを知る
	○				目標の大切さ、志の大切さを知る。
	○				行動する大切さに気づく。

テキスト・教材 参考図書: グローパルシティズンベーシックⅡ　テキスト

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	グローバルシティズンと志 ～志とは何か。どうすれば志を立てることができるのか～	
2	なぜ志を立てることが大切なのか　～世界の中の日本・日本の中の私①～	
3	自己を知る　～私の過去・現在・未来～	
4	伝える力を学ぶ(1) ～「個」としての伝える力を高める(自分の言葉で自分の思いと考えを伝える～	
5	伝える力を学ぶ(2)「グループコミュケーション」 ～勇気と思いやりをもって言葉のキャッチボールを～	
6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる (言葉の力とプロ意識に学ぶ)　～プロとは～	
7	自己の大切さと責任を自覚する　～世界の中の日本、日本の中の私②～	
8	GCBⅡを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと	

評価方法

(1)受講態度・意欲　(2)課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				70%

履修上の注意: 60%出席を単位付与条件とする

科目名	就職実務ＩＢ				
科目名(英)	Career Study 1B				
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	各クラス担任
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科　・　インテリアデザイン科　・　建築学科(昼)　1年				
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する				
授業形式	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる
○					基本的な面接対応ができる
	○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある
○	○				企業研究の方法を知っている
	○				学校求人を利用するための条件を知っている

テキスト・教材 参考図書

学校支給のGCBテキスト　就職活動ガイドブック

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	企業講話　実践的な課題の提案　＊メールアドレスの確認と管理	
2	就職活動に関する心構え　ものづくり系の仕事とは	
3	就職活動に関する心構え　必要なスキル	
4	就職活動に関する心構え　課題作品の模擬プレゼンテーション	
5	・履歴書の書き方　・メールアドレスの管理	
6	・履歴書の書き方　随時添削　・メールアドレスの管理	
7	・履歴書提出と添削	
8	就職活動スケジュールを確認　及び　順次個人面談と企業対策	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法

(1)受講態度・意欲　(2)課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				70%

履修上の注意

60%出席を単位付与条件とする

科目名	キャリア教育Ⅰ（選択）				
科目名(英)					
単位	2単位	時間数	30時間	担当者	各クラス担任
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	企業が求める人材を把握し、就職活動を円滑に進めるための意識付けと、求職票・履歴書の具体的な書き方や面接対策など、そのまま就職活動に活かせる実践的な演習を中心に授業を進めていく				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○	自己分析を基に、自己PRをまとめることができる
				○	企業の目線を意識した志望動機を書くことができる
				○	面接時の基本的なマナーが身につき、問題なくふるまうことができる
				○	面接官の質問に対し、問題なく受け答えができる

テキスト・教材 参考図書：就職ガイドブック

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	就職活動のための準備　ガイダンス	
2	求職票の書き方　「自己PR」の書き方	自己の強みと弱みについて自分なりに自己分析しておくこと
3	求職票記入　下書き・添削	
4	履歴書の書き方　「学生時代に力を入れたこと」「志望動機」など	自己の学生時代の経験、また希望企業への志望動機を自分なりに考えておくこと
5	求職票受付面接について　概要説明	
6	求職票受付面接練習　入退室・立ち居振る舞い・おじぎ	授業内で学習したマナーは日常生活の中でも意識して行うこと
7	求職票受付面接練習　面接官の視点・第一印象について	
8	求職票受付面接練習　質問と答え方、正しい敬語の使い方　①	
9	求職票受付面接練習　質問と答え方、正しい敬語の使い方　②	
10	求職票受付面接練習　通しで実践練習	
11	求職票受付面接練習　通しで実践練習	
12	求職票受付面接練習　通しで実践練習	
13	企業研究　実際に合同企業説明会・セミナーに参加	参加する企業について、事業内容、事業規模等事前に調べておくこと
14	企業研究　実際に合同企業説明会・セミナーに参加	
15	いろいろな報告書の書き方　ビジネス文書の作成	学んだ文書の書き方について復習しておくこと

評価方法

（1）受講態度・意欲　（2）課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価（可、不可）で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				70%

履修上の注意：60%出席を単位付与条件とする

科目名	キャリア教育Ⅱ（選択）				
科目名（英）					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	各クラス担任
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	インテリアデザイン科　1年				
授業概要	基本的にはキャリア教育Ⅰの内容の復習を中心に進め、より就職内定に近づける力を養っていく				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○	自己分析を深く進め、自己PRをまとめることができる
				○	企業の目線を意識した志望動機を書くことができる
				○	面接時のマナーが十分に身につき、自信をもってふるまうことができる
				○	面接官の質問に対し、自信を持って十分に受け答えができる

テキスト・教材 参考図書：就職ガイドブック

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	求職票の書き方　「自己PR」の書き方練習	自己の強みと弱みについて自分なりに自己分析しておくこと
2	求職票記入　下書き・添削	
3	履歴書の書き方　「学生時代に力を入れたこと」「志望動機」など	自己の学生時代の経験、また希望企業への志望動機を自分なりに考えておくこと
4	添　削　「学生時代に力を入れたこと」「志望動機」など	
5	求職票受付面接練習　入退室・立ち居振る舞い・おじぎ　①	授業内で学習したマナーは日常生活の中でも意識して行うこと
6	求職票受付面接練習　入退室・立ち居振る舞い・おじぎ　①	
7	求職票受付面接練習　質問と答え方、正しい敬語の使い方　①	
8	求職票受付面接練習　質問と答え方、正しい敬語の使い方　②	
9	求職票受付面接練習　通しで実践練習　①	
10	求職票受付面接練習　通しで実践練習　②	
11	求職票受付面接練習　通しで実践練習　③	
12	求職票受付面接練習　通しで実践練習　④	
13	企業研究　実際に合同企業説明会・セミナーに参加	参加する企業について、事業内容、事業規模等事前に調べておくこと
14	企業研究　実際に合同企業説明会・セミナーに参加	
15	いろいろな報告書の書き方　ビジネス文書の作成	学んだ文書の書き方について復習しておくこと

評価方法

（1）受講態度・意欲　（2）課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価（可、不可）で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				70%

履修上の注意：60%出席を単位付与条件とする

科目名	数学ゼミⅠB(選択)				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	吉田　麻美
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科　・　建築CAD科　・　インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				単項式と多項式の基本問題が解ける
○	○				文字式を利用した応用問題が解ける
○	○				連立方程式の基本問題が解ける
○	○				連立方程式の応用問題が解ける

テキスト・教材 参考図書

オリジナル演習プリント

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	【演習問題】 式の計算　単項式と多項式	解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。
2	【演習問題】 文字式の利用　偶数と奇数の和	
3	【演習問題】 文字式の利用　等式の変形	
4	【演習問題】 文字式の利用　図形の関係式の変形	
5	【演習問題】 連立方程式　加減法と代入法を用いた解き方	
6	【演習問題】 連立方程式　いろいろな連立方程式の解き方	
7	【演習問題】 連立方程式　連立方程式の利用・身近な問題を解く	
8	【演習問題】 総合復習　まとめ	

評価方法

(1)受講態度・意欲　(2)課題の提出　以上の内容を総合的に判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
受講態度・意欲	○	○				30%
課題の提出	○	○				70%

履修上の注意

60%出席を単位付与条件とする

科目名	BIM 専攻ＩＢ(選択)				
科目名(英)	Building Information Modeling ＩＢ				
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	道脇　力
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年				
授業概要	・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。				
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。
	○				レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。
	○				自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。

テキスト・教材 参考図書

ARCHICAD 22 Magic Vol. 1及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	プレゼンテーションボード作成「データ提出」	前回の復習を行うこと
2	ツールの応用、特殊ツールの紹介、質疑応答	前回の復習を行うこと
3	課題2:作成モデルのリノベーション「コンセプト」	情報、資料収集を行うこと
4	課題2:作成モデルのリノベーション「エスキス①」	情報、資料収集を行うこと
5	課題2:作成モデルのリノベーション「エスキス②」	情報、資料収集を行うこと
6	課題2:作成モデルのリノベーション「モデリング①」	タイムスケジュールの確認を行うこと
7	課題2:作成モデルのリノベーション「モデリング②」	タイムスケジュールの確認を行うこと
8	課題2:作成モデルのリノベーション「プレゼン資料提出」	必要提出資料の確認を行うこと

評価方法

(1)発表・作品 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
発表・作品		◎				50%
課題提出		◎				50%

履修上の注意

出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。